



OVERSEAS

Indonesia —インドネシア—

海外事情【寄稿】



インドネシア体験談



國貞広和 KUNISADA Hirokazu

復建調査設計株式会社
国際事業部

はじめに

当時、私は国内事業部に所属していましたが、国際事業部から「海外業務を目指そう」と誘われ、「とりあえずは経験を積むことだ」ということになりました。そして1997年7月円借款事業への役務提供の機会を皮切りに、これまで数回、インドネシアでの生活を体験してきました。思いつくまに、インドネシア体験談を紹介させていただきます。

初めてのインドネシア

インドネシア体験は、東ジャワ

州の州都スラバヤから西に車で2時間程の所にある小さな町ババットから始まりました。

福岡空港から出国となりましたが、片言の英語すら話せない私は、同乗していた日本人の後ろ姿を追っかけて、何とかスカルノハッタ国際空港に到着。そこで、私の名前が書かれた紙切れを持った出迎えの運転手に出会うことができ、ジャカルタ市内のホテルに到着できました。翌日には、スラバヤを経由して目的地のババットに到着しました。

ババットは、川幅が300m程のソ

ロ川下流域の右岸堤防に沿った、30分も歩けば1周できる程の小さな町です。民家を借りて宿舎にし、3人の日本人技術者と4人のインドネシア人(コック、メイド、雑役、門番)で共同生活をしていました。

日々の食べ物は、近くの市場で手に入れた食材でコックが作ってくれる日本食らしい食べ物が主体でしたが、インドネシア料理のサテ(鳥/ヤギの串焼き)、ソトアヤム(鶏肉、ビーフン、キャベツ、ゆで卵等が入った香辛料たっぷりのスープ)、ナシゴレン(焼き飯)、ミーゴレン(焼きそば)等で食生活に変化をつけてくれました。

夕食後は庭先で、一緒に住んでいたインドネシア人を先生にして、夕涼みを兼ねたインドネシア語の勉強に励んでいました。3カ月を過ぎた頃には片言の会話ができるようになり、週末は車で1時間程のゴルフ場で汗を流して余暇を過ごしていました。

当時は1円が20ルピア程度で、1カ月の生活費(食費、タバコ代、ビール代、雑費)が150万ルピア(7.5万円)だったと思います。ババット



図1 訪問した都市の位置



写真1 ババットの町



写真2 バトゥテギ村にあるダム周辺の風景

では外貨をルピアに換金できないということで、150万ルピアを事務所支給して頂き、帰国後に精算する段取りでした。

ところが、1997年8月にルピアは通貨危機の煽りを受け、翌年にはルピアの価値が従来の1/5に低下してしまいました。このルピア下落に伴う物価上昇に国民の不満が爆発し、ジャカルタを中心に市民の暴動が発生するようになりました。ババットは田舎の小さい町で、暴動に巻き込まれる危険は無いように思いましたが、私たちも国外退去勧告に従ってスラバヤの国際空港近くのホテルに避難し、シンガポールへの退去時期を窺っていました。幸いにも避難2日目には暴動が沈静化されたとの情報が入り、ババットの宿舎に引き返すことができました。

スマトラ島での生活

2回目のインドネシアは、スマトラ島のランブン州の州都バンドルランブンから、直線で60km北西に位置する標高300m程の小さな村バトゥテギにあるダム建設現場でした。この村は自然に恵まれた所で、辺り一面でコーヒーと胡椒が栽培されており、時々、サルやシカの野生動物を見ることができ

した。

現地に用意された宿舎での日本人技術者4人、コック1人、メイド1人の共同生活で苦勞した事は、日々の生活用水(洗顔、歯磨き、シャワー、洗濯)の確保でし

た。予定していた水源(井戸)で水が出なかったため、隣村の民家の井戸水を軽トラックで毎日運搬して生活用水を確保していました。20ℓ位のポリ容器に入った飲料用水と調理用のプロパンガス



写真3 スーパーマーケット



写真4 スカラメゴルフ場



写真5 ジョグジャカルタの集合住宅(宿舎)

は近くの市場で調達できました。

隔週の土曜日は買出しで、午後から山を降りてバンドルランプンに出向いて買い物を済ませ、ビール持参で行き付けの屋台の「泥蟹の黒胡椒炒め」を食べ、翌日にゴルフを楽しんで山に帰る生活が続きました。

人里離れた寂しい場所での生活でしたが、バンドルランプンのスーパーマーケットでは味噌や醤油等の調味料、ちょっとした食材、ビール、ウイスキーが手に入り、山の宿舎ではNHKワールドプレミアムのテレビ放送を楽しむことができ、快適で健康的な生活環境に恵まれていました。

最近のインドネシア

ここ最近訪れたインドネシアは、ジャワ島中南部に位置するジョグ

ジャカルタ特別州の州都ジョグジャカルタでした。

6カ月毎に2週間の一時帰国が認められていましたが、42カ月に及ぶ業務上の拘束期間があったことから、配偶者の同行を考慮して技術者毎に宿舎が提供されました。最盛期には技術者の数が10数人に達し、安全確保の観点から塀で囲まれた集合住宅に寄り合って宿舎を構えていました。

買い物、炊事、洗濯、掃除等の家事は住み込みのメイドさんに面倒を見てもらいました。各宿舎のメイドさんは同郷の人達で結束力が強く、得意な料理の作り方を教えて、快適な生活環境を提供してくれました。この頃からインドネシアの生活のあれこれが分かるようになり、ほとんどの生活用品は現地で調達することにして、軽

装で訪問するようになりました。ルピアはワールドキャッシュ・カードを使用して(日本の預金口座を使用して、当日の換金率+手数料で現地通貨が現地のATMから引き出せるサービス)調達するようになりました。

ジョグジャカルタは王宮、世界遺産のボロブドゥール寺院(仏教遺跡)とプランバナナ寺院(ヒンドゥー教遺跡)がある安全な観光都市で有名どころですが、忘れる事が出来ない経験をするようになりました。

宿舎の30km程北に位置するムラピ山は2006年5月初旬から火山活動が活発になり赤い溶岩を噴出し始め、同月中旬には噴火を繰り返すようになりました。大災害には至りませんでした。夜になると赤い溶岩が山頂から流れ出

ているのが見え、噴火の時にはドーンと聞こえる鈍い音とともに噴煙が上空に舞い上がるのを何度か見ました。

その後、ジャワ島中部地震が2006年5月27日午前6時頃に発生しました。小さな揺れで目が覚めて、ムラピ山の噴火だろうと思いつつトイレへ行こうと部屋を出た所で、ドスンと突然大きな揺れに襲われ、立ってられない程の揺れが続きました。早く表に逃げなければと思いましたが、倒れかけてきた本棚を咄嗟に押さえた状態で何もすることができませんでした。宿舎の倒壊は免れたものの、屋根瓦が落ちて散乱し、壁には至る処にひび割れが発生していました。玄関近くの椅子に座って備え、余震が起こる度に表の道路に避難していました。

この地震は、ジョグジャカルタから約20km南の海岸付近が震源で、震源に近かったバントゥル地区では多くの家屋が崩壊し、2,000人を上回る方々が亡くなりました。

独立記念日

インドネシアは、第二次世界大戦終結の2日後に当たる1945年8月17日に独立を宣言し、オランダとの独立戦争を経て1949年12月にオランダからの独立承認を勝ち取りました。毎年8月17日には各地で独立を祝う記念式典が開催されます。

独立記念日の1カ月前には、児童や生徒の行進の練習が始まり、車には小さな国旗が飾られて、独立記念式典への気運が高まります。記念日当日に催される各機関の国旗掲揚式典では、生徒や着飾った市民の行進が誇らしく、独立戦争に参戦した義勇軍の雄姿

を思いおこさせます。

プロジェクトの事務所では、小さな運動会を楽しんだ後に、皆で食事をしてインドネシアの独立を祝ってきました。

イスラム教徒の国

インドネシアは、世界最大のイスラム教徒を抱える国と言われています。残念ながら、一部の過激派による爆弾テロ事件が2002年と2005年にバリ島で、2003年、2004年、2009年には首都ジャカルタで発生しました。そのため、安全確保に留意しなければならない国の一つであることを認識しておく必要があります。

イスラム教徒の国では、一年の中で最も重要で神聖な月が断食月(ラマダン)で、日の出から日の入りまで飲食、喫煙等の行為が社会的に厳しく禁止されています。一切の欲を絶ち、清らかな心で自分を見つめ直すための月となるそうです。断食開始の前日には、「これまで貴方に何か誤った事をしていたら許して下さい。明日から断食をして自分を見つめ直し、新しい自分の発見に努めます」と断食開始の挨拶があります。ただし、体調の悪い人、妊婦、月経中の女性、旅行者等は一時的に断食が免除され、あとで一般月にその埋め合わせをするそうです。

断食中も、いつもと同様に作業をします。その日の断食が明けると断食を行っている人たちには、甘いお茶やナツメヤシの実の砂糖漬け等が振舞われます。家ではご馳走が用意され、翌日の日の出までに飲食を済ませて出勤することになりますが、「断食中に体重が増えてしまった」ということをよく耳にしました。

断食月が終わると断食明け大

祭(レバラン)が始まります。レバラン・ボーナスを手にしたお手伝いさんや運転手は、ルンルン気分で一週間程度帰省することになります。レストランや商店も長期休業となり、レバラン対策の準備を怠ると、今度は我々日本人が、一週間程度の断食をする羽目になります。

インドネシアの仲間

インドネシアの仲間の印象は、経験年数が増すごとに変化してきました。これはごく自然なことだと思います。つまり、言葉の壁が低くなるにつれて、相手の真意が見えるようになったということです。

個人的な目で見た現在のインドネシアの仲間の印象を挙げると以下のようなものがあります。

- ①熱心に仕事をこなすが単純ミスが多い(完璧を重要視しない)
- ②個人的に責任を負うことを嫌う(個人攻撃をしない)
- ③恥をかくことを嫌がる
- ④人前で怒ることはしない
- ⑤「出来ない」と言わない
- ⑥嘘をつかない(言い訳が多い)
- ⑦誰にでも笑顔で親切
- ⑧家族の絆が強い
- ⑨噂話が好き(強力な情報網を構成している)

おわりに

インドネシアの国旗の赤色は勇氣と情熱、白色は真実と聖なる心を表しているそうです。

広大な土地と豊富な天然資源に恵まれたインドネシアの更なる発展を目指して、インドネシアの仲間と共に、より一層の勇氣を奮い、情熱を燃やして今後も頑張っていきます。

<写真提供>
Google Earth



写真6 ボロブドゥール寺院



写真7 プランバナナ寺院



写真8 ムラピ山の溶岩の噴出



写真9 火砕流



写真10 ジャワ島中部地震で被害を受けた家屋